

ジェンダーギャップ指数2021 日本は120位でG7最下位

スイスの研究機関である世界経済フォーラムが発表した、2021年版の国別のジェンダーギャップ指数(経済・教育・医療・政治の4分野14項目のデータで各国の男女の格差を分析した指数のこと)で、日本は調査対象となった世界156カ国中120位だったことがわかりました。前年からひとつ順位を上げたものの、主要7カ国(G7)では引き続き最下位でした。「完全な男女平等」を100%とした場合、首位のアイスランドは89.2%となり、続いて2位フィンランド(86.1%)、3位ノルウェー(84.9%)とトップ3を北欧の国々が独占しました。一方で120位の日本は65.6%でした。

【出典】世界経済フォーラム「Global Gender Gap Report 2021」令和3年3月30日



ヤマト運輸 2020年度宅配便最多の21億個

ヤマト運輸は、2020年度の宅配便取り扱い実績が前年度比16.5%増の20億9699万個となり、過去最多を更新したと発表しました。2016年度以来、4年ぶりの増加となり初めて20億個を超えました。新型コロナウイルス流行による巣ごもり需要の高まりでインターネット通販の利用が伸び、実績を押し上げたとみています。「宅急便」が10.8%増の18億367万個、ポストに投函できる「ネコポス」も、フリマアプリの普及で70.0%増の2億9331万個と大幅に伸びました。一方で、法人向けの「クロネコDM便」は経済活動の停滞で16.3%減の8億2603万冊と落ち込んだ結果となりました。

【抜粋引用】読売新聞オンライン「ヤマト運輸の宅配便、初の20億越え…『巣ごもり需要』急増」令和3年4月6日

新小学1年生が「就きたい職業」 1位は警察官

化学メーカーのクラレは、この春に小学校に入学する子どもと親を対象に実施した「将来就きたい職業」「就かせたい職業」の調査結果を発表しました。男の子が将来就きたい職業の1位は「警察官」(17.2%)で、2位は「スポーツ選手」(13.0%)、3位は「消防・レスキュー隊」(7.6%)という結果となり、1999年の調査開始以来、ずっとトップだったスポーツ選手が初めて2位になりました。女の子が将来就きたい職業の1位は、調査開始以来23年連続で「ケーキ屋・パン屋」(26.7%)でした。2位は「芸能人・歌手・モデル」(6.4%)、3位は「看護師」(6.2%)と続きました。また、1年前の調査では警察官は9位でしたが、今回の調査では6位にランクインし、男女ともに、警察官への注目が高まっていることがわかりました。

【出典】株式会社クラレ「新小学1年生の『将来就きたい職業』、親の『就かせたい職業』」令和3年4月2日

中学2年生のヤングケアラー 全体の6%

厚生労働・文部科学両省は、病気の家族の介護や世話を担う18歳未満の子ども「ヤングケアラー」に関する初の実態調査を行いました。調査結果によると、世話をする家族が「いる」と答えた割合は中学2年生が5.7%(約17人に1人)、高校2年生(全日制)が4.1%(約24人に1人)いることが判明しました。内容は、食事の準備や洗濯などの家事が多く、他にも兄弟姉妹の送迎や祖父母の介護・見守りなど多岐にわたります。世話に費やす時間は、平日1日の平均で中学2年生が4時間、高校2年生は3.8時間であり、7時間以上という負担が重い学生も1割程度いることがわかりました。ヤングケアラーは子どもの負担が大きいが課題となっており、菅義偉首相は今年3月に支援を表明しています。

【出典】厚生労働省「ヤングケアラーの支援に向けた福祉・介護・医療・教育の連携プロジェクトチーム

第2回会議資料」令和3年4月12日